



顕彰慰霊碑（水沼河原）

『偉人小栗上野介
罪なくして此所に斬らる
岳南蜷川新 書』

小栗上野介の生涯

和 暦	西暦	事 項	参 考 事 項
文政10年6月	1827	江戸駿河台で生まれる	1853 ベリー浦賀来航 1858 日米修好通商条約調印 安政の大獄
安政6年9月 11月	1859	本丸御目付になる 豊後守になる	
万延元年1月	1860	遣米使節目付としてアメリカへ。 アフリカ、アジアを巡り品川に帰着	1860 威臨丸、ボウハタン号出航 井伊直弼暗殺
11月		外国奉行になる	1861 対馬事件 アメリカ南北戦争
文久2年6月	1862	勘定奉行勝手方になる 上野介になる	1862 生麦事件
閏8月 12月		江戸町奉行になる 歩兵奉行になり、勘定奉行 勝手方を兼任する	
文久3年7月	1863	陸軍奉行になる	
元治元年8月 12月	1864	勘定奉行勝手方になる 勘定奉行を免ぜられる 軍艦奉行になる	1864 禁門の変 下関戦争
慶応元年5月 9月	1865	勘定奉行勝手方になる 横須賀製鉄所納入式	
2年8月	1866	海軍奉行を兼任する	1866 薩長同盟
3年12月	1867	陸軍奉行を兼任する	1867 大政奉還
4年1月 3月	1868	役職すべてを罷免される 上州権田村へ移り、 東善寺に仮住まい	1868 戊辰戦争
閏4月6日 (現在の5月27日)		西軍により斬首される	江戸を東京と改める

案 内 図



交通のご案内

- お車では・・・前橋I.Cより28km 約50分
- 電車では・・・長野新幹線安中榛名駅よりタクシーで約20分
高崎駅より路線バス（権田行き）で約60分

発行 高崎市
編集 (一社)小栗上野介顕彰会
〒370-3492 群馬県高崎市倉渕町三ノ倉303番地
TEL 027-378-3111 FAX 027-378-4024
高崎市倉渕支所 地域振興課内

□小栗上野介顕彰会ホームページ
<http://www.12.wind.ne.jp/oguri-k/>

□東善寺ホームページ
<http://tozenzi.com/>

日本近代化の父 小栗上野介



上州・倉渕の里



上：小栗家の家紋・たつなみ 下：遣米使節に乗ったボウハタン号の模型（東善寺蔵）



小栗上野介・肖像画（東善寺蔵）

おぐりこうずけのすけ

日本近代化は小栗上野介のルールの上にー

■譜代の旗本に生まれ、遣米使節として米国～世界一周の旅から帰国すると外国、勘定、江戸町、歩兵、陸軍、軍艦、海軍各奉行を歴任。幕府の要職にあって米国での見聞を基に日本近代化の方策を実行に移し、横須賀造船所建設、仏語伝習所や日本初の株式会社兵庫商社の設立、仏式軍隊の導入訓練、滝野川反射炉による大砲製造のほかガス灯・郵便制度・鉄道・新聞発行を提唱するなど幕末の多端ななかに活躍、「明治の近代化は小栗の敷いたルールの上になされた」といわれる業績を残している。

■幕府崩壊後、移り住んだ領地権田村で、上野介、塚本真彦・荒川祐蔵・佐藤藤七とアメリカ帰りの四人が若者の教育を目指した。しかし、小栗公の実力を恐れた西軍により小栗父子は家臣とともに無実の罪で斬首された。

■村人は夫人・母堂らを護衛、山河はるかに野反湖～新潟～会津へ逃れ、会津で生まれた女兒とともに、戊辰戦争後に静岡まで送り届けその遺族を護った。それは何の報償も求めぬ義挙であった。

倉渕の里にみる小栗上野介の史蹟



現存する上野介の居宅

観音山に用水を引き、建てかけたが未完に終わった。(現都丸薫氏宅・前橋市総社町)



観音山から浅間隠山を望む

小高用水

水に困っていた小高集落の人々のため、上野介が器械測量した用水は今も流れ潤している。(倉渕町権田)



姉妹観音

塚本真彦の家族はしるべを頼って七日市へ逃れる途中、山中に迷い相間川のほとりで幼い姉妹が命を落とした。川岸に慰霊の姉妹観音が立つ。(倉渕町岩氷)



東郷平八郎の書

明治45年東郷は、遺族を招き「日本海海戦で勝利したのは小栗さんのおかげ」と礼を述べ、この書を贈った。(東善寺蔵)



東善寺境内・上野介と栗本鋤雲の胸像

東善寺は小栗家五代政信公を中興開基とする曹洞宗の寺。上野介一家はこの寺に二ヶ月あまり仮住まいして、観音山に居宅建設を進めた。



黒椿

江戸から運ばれた椿が、黒みをおびた名花を上野介主従の墓のわきに咲かせる。

小栗上野介父子の墓(東善寺)

正面に小栗上野介(右)、又一(左)左右に殉難の家臣らの墓が並ぶ。



手回しドリル

遺品

欧米文化を象徴するアメリカ土産をはじめ、刀、槍、麻裃、小銃などが残されている。(東善寺蔵)



望遠鏡

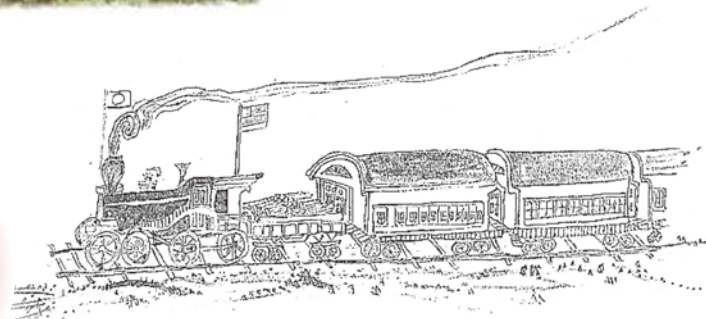


ピストルとケース



ネジ釘

「こういうものをどんどん造れる国にしたい」と造船所から持ち帰り配った。



汽車(パナマ鉄道)

パナマでボウハタン号を下船、汽車で大西洋側へ出た。鉄道が株式会社の手法で建設運営されている説明を受けた。(権田村名主・佐藤藤七「渡海日記」挿絵)

日本近代化の礎を築いた小栗上野介



横須賀造船所

はじめは横須賀製鉄所といい、蒸気機関を原動力として船のエンジンからパイプ、シャフト、スクリュー、ネジ、ロープ、帆などあらゆる製品を造る本格的な総合工場で、日本産業革命の地である。



ブロードウェイの 大行進

ニューヨークのブロードウェイで大歓迎をうけ、ホテルに到着した遣米使節一行。



ワシントン海軍造船所の遣米使節一行

1860(万延元)年4月5日撮影。前列右から二人目が小栗忠順。造船だけでなく大砲、小銃、砲弾などを造り出す総合的軍事工場だった。小栗公は鉄を切る・延ばす・曲げる作業を数人が蒸気機械でたちまち行う様を見て、日本の近代化の道筋をイメージした。



築地ホテル

上野介の指導による株式会社の手法で民間資本を募って清水喜助(清水建設二代目)が慶応4年に完成させた。